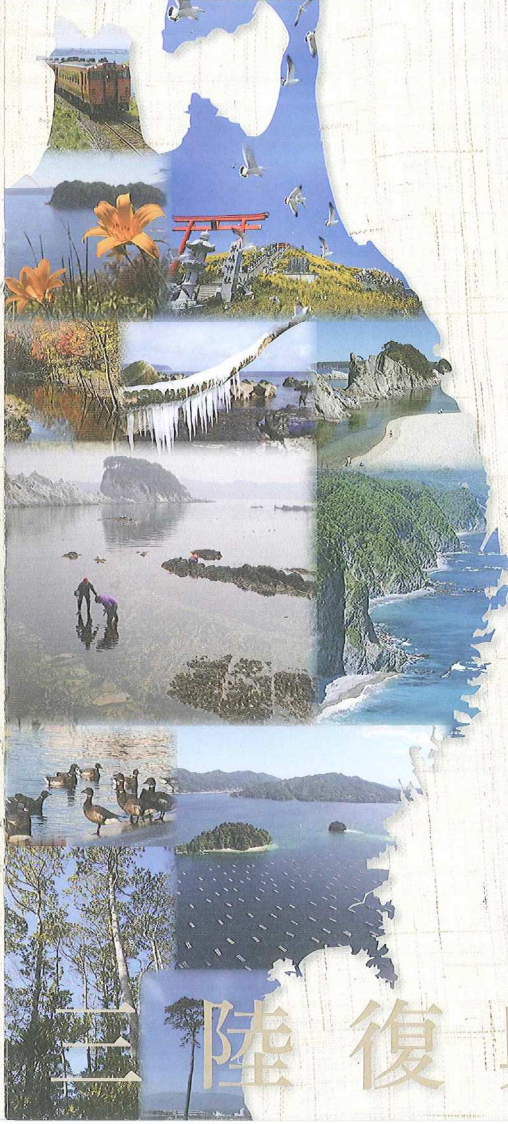


森・里・川・海

新たな国立公園へ、グリーン復興プロジェクト

つながる自然 つながる未来



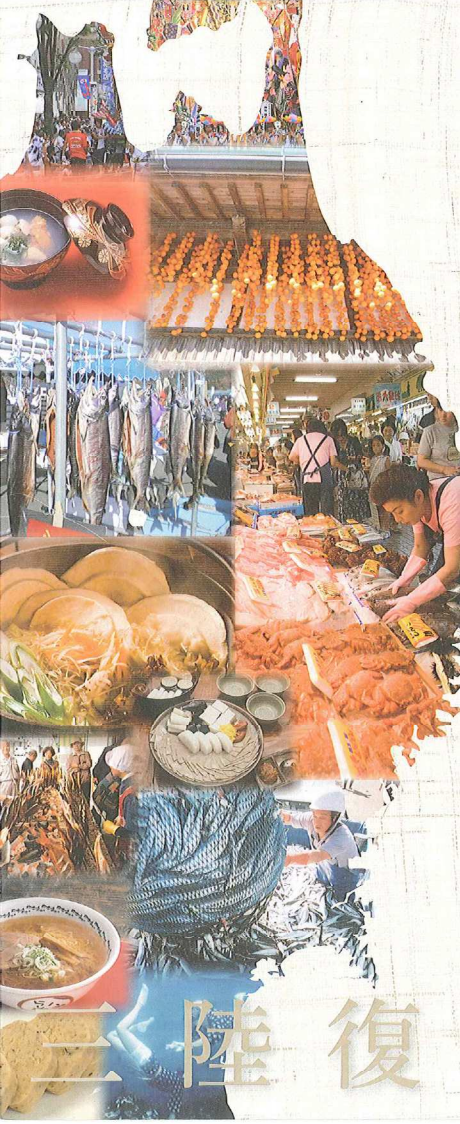
天 災の大風暴を国が永続的に守り、国民の利用に供していく制度として設けられた国立公園は、制度の創設以来80年の歴史を積み重ねてきました。これまでの歴史を活かしながら、グリーン復興という理念のもとでの新たな国立公園づくりを進めます。自然の恵みと尊厳、やさしさこわさを学び、人と自然の関わりや共生のあり方を見つめ直す場として整備していくことが被災地の復興に寄与するものと考えます。

この地域では、古くから漁師の皆さんが山の神に感謝してきたように森と海のつながりが大切にされてきました。今後、森・里・川・海の連携をより強いものへと回復させることができた時に、地域ごとに特徴ある自然の輝きが増すだけでなく、各地域のくらしや営み、歴史、文化のそれぞれが自然との関わりなかで輝きを増していく……、グリーン復興の取組を契機として、地域の将来を日招した取組が多く関係者の協働によって進められていくことを強く望みます。

-
1. 八戸三社大祭
 2. いちご農
 3. 干し柿
 4. 新巻城
 5. 津屋
 6. 八戸せんべい汁
 7. 平谷つつ
 8. 船市
 9. 安塩巻のぜんま水揚げ
 10. 八戸のあん
 11. 久慈の海女
 12. 豆しどぎ

新たな国立公園へ、グリーン復興プロジェクト
発行：2012年

環境省
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎5号館
<http://www.env.go.jp/>
©Ministry of the Environment 2012
編集協力：(株)メッツ研究所 デザイン：(株)アートポスト



三陸復興



三陸復興



明神崎 (山田町)

つながりが育む自然こそが、豊かな暮らしの源です。

東北地方太平洋沿岸地域には美しい自然景観と、世界的にも優れた漁場が広がっています。この自然の恵みによって地域の産業が支えられ、人々の暮らしを豊かにしてきました。一方で、繰り返される津波、「やませ」による冷害など、厳しい自然環境とともに長い年月をくりしてきた地域であり、自然の脅威や厳しさと共存していくために、多くの知恵・技術・文化が育まれてきました。

東北地方太平洋沿岸地震による大規模な地震・津波・地盤沈下は、この地域の多くの人々の生命や財産のみならず、自然環境にも大きな影響を与え、自然は時として大きな脅威をもたらすということを私たちに再認識させました。また、脅威の側面を持つ自然との向き合い方、人と自然の共生のあり方を考え直す転換点になりました。

東日本大震災の直後から人々が立ち上がり、様々な場面で連携し、互いに支え合いながら、復興に向けた取組が進められています。自然の底知れない偉大さや脅威を前に、人々の中の「絆」や「つながり」の大切さが改めて共通の認識となりました。

これからも繰り返されるであろう地震・津波に備え、自然に配慮し、自然の回復力を活かし、自然とともに歩む復興を進めることをして、持続可能な地域をつくり、豊かな自然が地域の暮らしを未来に引き継ぐことが、いま、求められています。

- 復興事例
1. 白川町 (白川町)
 2. 鹿角市 (鹿角市)
 3. 山田町 (山田町)
 4. 大船渡市 (大船渡市)
 5. 釜石市 (釜石市)
 6. 大川町 (大川町)
 7. 大田原町 (大田原町)
 8. 大田原町 (大田原町)
 9. 大田原町 (大田原町)
 10. 大田原町 (大田原町)
 11. 大田原町 (大田原町)
 12. 大田原町 (大田原町)

磐石展望 (大船渡市)

田園風景 (大船渡市)

学び楽しむ 拠点づくり

Project 7

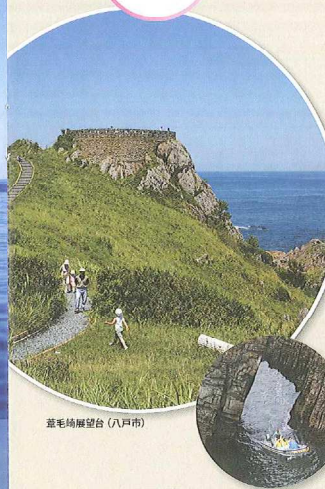
里山・里海 フィールドミュージアム

再編成した国立公園とその周辺部の里山・里海、集落地を含めた一定のまとまりをもつ地域をフィールドミュージアムとして位置付け、国立公園内の核となる施設を整備し、そこを拠点にエコツーリズムの推進や環境教育などを、面的、複合的に推進することで、周辺部も含めた地域の活性化に貢献します。



浄土ヶ浜ビジターセンター (宮古市)

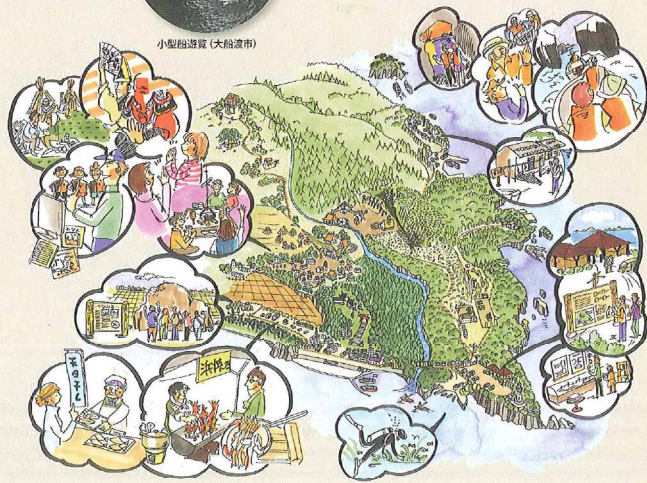
また、被災した利用施設については復旧・再整備を迅速に進め、従来からの観光拠点を再生するとともに、収集した地震・津波に関する情報や痕跡遺構などを活用した自然の脅威を学ぶための場の整備や、地域の自然やくらしを紹介する施設整備を進めます。



釜毛岬展望台 (八戸市)



小型船遊覧 (大船渡市)



地域産業と
ともに歩む



フカミ対り取り体験 (大船渡市)

Project 3

復興エコツーリズム

地域の自然環境やくらしなど、地域ならではの宝を活かした、自然を深く楽しむ旅を創造するため、エコツーリズムを推進します。

「食」資源の活用や、漁業者との連携による小型漁船の活用や漁業体験、大震災の体験の語り継ぎや被災地のガイドツアー、震災の痕跡・地質や化石などを資源に展開されるジオツアーとの連携などにより、幅広く復興に貢献します。

エコツーリズム推進のためのプログラム作成、ガイド育成、情報発信、持続的活用のためのルールづくり等の支援を行い、将来的には地域自立型のエコツアーが実施できる体制づくりを進めます。

Project 4

森・里・川・海のつながりの再生

地域の暮らしを支える自然環境や森・里・川・海のつながりなどの重要性を多くの人に理解してもらうための取組と、自然環境の再生を通して森・里・川・海のつながりを再生します。

地震・津波の影響を受け九千瀧や深場等の生態系について調査・モニタリングし、その回復状況や地域の復興の状況や意向を踏まえながら、保全・再生の手法や体制を検討します。

里山などで人とのかわりが少なくなった地域については、地域の意向に配慮して、森・里・川・海のつながりを意識した自然環境の再生、エコツアーや環境教育等での活用について、検討を進めます。

※地震・津波の影響によりできた環境も始めます

自然の回復
を助ける



津波により減少したアマモ(大槌町)

経験を
引き継ぐ



ESDの様子

Project 5

持続可能な社会を担う
人づくり(ESD※)の推進

自然と共生する地域づくりを支え、持続可能な社会の実現を目指すことのできる人材の育成のため、自然環境の成り立ち、森・里・川・海のつながりと人の暮らし、自然の脅威と防災や減災などをテーマに、これからの地域社会を担う人づくりを進め、ESDを推進します。

被災者の体験を通して今後の防災や減災に活かすべき知恵・知見の収集を行うとともに、今後のESD推進のあり方について検討を進めます。

※持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development): 持続可能な社会の実現を目指す、一人ひとりがよりよい社会づくりに参加するための力を育むための学習や活動のこと

変化を
追いつける



津波石(気仙沼市)

Project 6

自然環境モニタリング

自然環境は、地域の暮らしの基盤であると同時に、様々な取組の基盤となるものです。そこで、生物多様性保全上重要な地域での地震・津波による自然環境への影響調査や変化する自然環境のモニタリング調査を継続するほか、過去の津波も含め、津波石などの津波の痕跡を調査し、地震・津波・災害を記録します。

また、研究者等と連携し、様々な地震・津波の情報を集約し、多くの方が利用できるアーカイブとして整理・公開するとともに、地震・津波の自然環境への影響の総合的な評価について検討を進めます。

国立公園の創設を核としたグリーン復興

基本理念

森里海川

が育む自然とともに歩む復興
三陸復興国立公園の創設をはじめとした
様々な取り組みを通じて、
森・里・川・海のつながりにより
育まれてきた自然環境と
地域の暮らしを後世に伝え、
自然の恵みと脅威を学びつつ、
それらを活用しながら復興します。



北山崎の自然美(田村町)

かまishiの花(気仙沼市)

岩の岬上(釜石市)

桂浜海岸(大槌町)



東京から三陸地域への主要アクセス網

凡例

- 空港
- 新幹線
- 高速道路
- 国道・県道・市道
- 三陸沿岸道路(一部供用)
- 鉄道(一部貨物・バス運行)

基本方針

自然の恵みを活用する	東北ならではの観光スタイルの創造を目指し、自然と共に生き、自然の恵みを活用するくらしや文化を大切にします
自然の脅威を学ぶ	今後も繰り返されるであろう地震・津波に備えるため、今回の地震・津波について正しく理解し、自然の脅威を学び伝えます
森・里・川・海のつながりを強める	復興後の持続的な地域の発展のため、地域の暮らしを支える基盤である自然や生態系を保全・再生し、森・里・川・海のつながりを強めます

復興の
地域づくり

Project 1

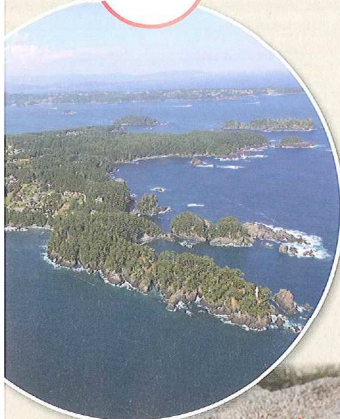
三陸復興国立公園の創設 (自然公園の再編成)

陸中海岸国立公園など傑出した自然風景をもつ地域を中核に、「三陸復興国立公園」を創設し、復興の観点から、これまで以上に地域と連携して適切な自然の利用を推進し、地域振興に貢献します。

自然の上に成り立っている地域のくらしや文化の活用場、自然の脅威を学び人と自然のかかわり方を見つめ直す場の整備や災害廃棄物由来の再生資材の活用など、これまでにない新しい取組を積極的に進めます。

国立公園の迅速な再編成を行うためにも、既存の保護・管理のための地域区分を基本として検討しながら、段階的に再編成を進めます。将来的には、豊かな生態系の保全を進めるために、また、復興とともに変化する自然環境にあわせて公園管理を進めるために、公園区域、保護・管理のための地域区分を見直します。

国立公園の名称は、復興に貢献し、国内外を含め多くの方の支援を受けるため「三陸復興国立公園」とし、復興状況を見て、将来的にふさわしい名称を検討します。



気仙沼大島 (気仙沼市)



北侍浜のスズシロ (久慈市)

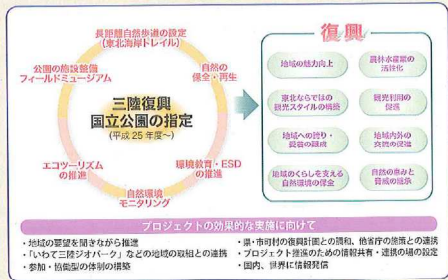


種彦海岸日の出 (八戸市)

自然公園の再編成イメージ



「グリーン復興プロジェクト」が目指すもの



結び、
出会う

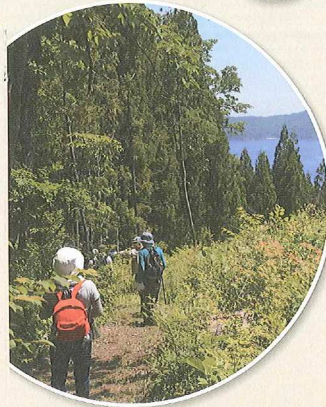
Project 2

長距離自然歩道 「東北海岸トレイル」

三陸地域を南北につなぎ交流を深める道として「東北海岸トレイル」(仮称:名称は今後地域の意見を聞きながら検討します)を設定します。里の道や林道などの既存の道を活用し、準備の整った地域から段階的に路線を設定します。また、集落地を通るルートの設定の際には、災害時の避難路としても活用できる仕様を検討します。

標識、トイレ、案内所、駐車場などの利用のための施設の整備を進めるとともに、長い路線を一気に歩きとおす“スルーハイク”や全線をいくつか区切って歩く“セクションハイク”、トレイル付近の観光スポットや、鉄道・船舶などの他の交通機関との連携、自転車利用など、多様な利用形態を想定したルート・支線の設定について検討を進めます。

あわせて、多様な主体による維持・管理の体制の構築、利用促進のための普及啓発についても検討を進めます。



浄土ヶ浜へ向かう道 (宮古市)



藤島 (八戸市)

